

優秀賞

家族をひとつひとつくねる弟

茨城県 日立市立豊浦小学校四年 山口 慧士

「カチカチ。」
いつものように、弟と話をしていると、弟がいやなときは、歯をカチカチならして自分の気持ちを教えてくれます。

ぼくの弟は、三年生です。弟が病気にかかったのは、ぼくが三才のころでした。弟が、入院していたことで覚えておくことはあまりありませんが、おばあちゃんといっしょに何度か病院に行ったことを覚えていきます。時々帰ってくるお母さんに、入院している弟の写真を見せてもらいました。さんそマスクをして、たくさんの点てきをしているすがたを見て、ぼくはその時「弟が死んでしまう」と、ドキドキしてしまいました。

約二ヶ月後にたい院してきた弟は、立つことも歩くこともできなくなってしまいました。それだけではなく話すことも出来なくなっていました。

まず。日を追うごとに、自分で出来ることを多くしようとしてくれる弟は、ぼくにとってじまんの弟です。ぼくは、ふつうの弟とたくさん遊びたい、ふつうの弟とたくさん話をしたかったです。友達の兄弟が楽しく遊ぶことをしてみたいと思うことがありました。

弟にはしょう害がありますが、今では他の友達の兄弟と同じだと思えるようになりました。これから先、みんなから弟のことを何か言われたら悲しい気持ちになるけれど、弟のことをよく分かってもらえるように、兄としてがんばりたいです。

今では、家でくつろいでいると、いつの間にか弟が家族の中心にいます。弟の何気ない仕草が家族みんなを笑顔にし、家族を一つにしてくれます。そんな弟に「いつもありがとう」と言いたいです。

ぼくにとってかけがえのない弟とずっといっしょにいたいし、兄として弟を守っていききたいです。



『急性のうししょう』という病気の後いししょうのせいです。変わってしまった弟を見て、ぼくは悲しくなっていました。覚えています。

それでも弟は、自分の名前と家族のことは忘れていませんでした。ぼくが弟の名前をよぶときちゃんとぼくの顔を見てくれました。それは、話をするための出来ない弟のせい。いっばいの返事だと思い、とてもうれしい気持ちになりました。

今、弟は特別支援えん学校に通っています。病気にかかってから、リハビリやいろんな訓練をがんばっています。そのおかげで、とてもわらうようになり、ぼくもうれしい気持ちになりました。弟と話をしていると、時々ぼくが意地悪なことをすると、歯を「カチカチ」ならして自分の気持ちを主張してくれるようになりました。自分の気持ちを弟なりに表現出来るようになったのは、すごいことだと思っています。